

行動障害と虐待

行動障害のある虐待事例(障害者福祉従事施設従業者等)
被虐待障害者777人のうち、行動障害のある者が全体の32.3%

	強い行動障害がある※	認定調査を受けてはいないが、強い行動障害がある	行動障害がある	行動障害なし	行動障害の有無が不明	合計
人数	149	8	94	213	313	777
構成割合	19.2%	1.0%	12.1%	27.4%	40.3%	100.0%

令和元年12月 平成30年度「障害者虐待防止法」に基づく対応状況等に関する調査結果報告書より

強度行動障害支援者養成研修

「…現状では事業所での受け入れが消極的であったり、身体拘束や行動制限などの虐待につながる可能性も懸念される…」

「…障害特性の理解に基づく適切な支援を行うことにより、強度行動障害が低減し、安定した日常生活を送ることができていることが知られている」

「強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）事業の実施について（運営要領）」（平成26年1月31日）

行動障害と虐待

①対応の困難さ

知識、支援技術不足

②引き出される負の感情

抱えるストレス、感情のコントロール

虐待を防ぐには①

障害特性を理解する

(認知、感覚の違い、理解の仕方等)

有効な支援方法を知る

(構造化、視覚支援、コミュニケーション等)



学ぶ機会の確保

(研修、OJT、スーパービジョン、人権意識の向上、等)

虐待を防ぐには②

セルフケア

- ・自分のコンディションの把握
- ・感情のコントロール
 - 落ち着く
 - ボリュームとパワーのコントロール
 - 見通しを立てる（腹を決める）
 - モデルとなる人を思い浮かべる



チームや組織でのケア

（悩みや葛藤を話せる仲間、協力体制、共感と励まし）

再発防止の取り組み（チーム）

- 当日の動きの振り返り
（職員体制、協力体制、ヘルプの仕方等）
- ディスカッション
 - ①不適切ケア ②良い関わり
 - ③負の感情 ④嬉しかった声かけ
- 研修
 - ①アンガーマネジメント
（ホールディング、対応のロールプレイを含む）
 - ②人が支援するということ（当事者の話）

演習①

5分でできる職場のストレスチェック

5分でできる職場の ストレスチェック

4つのSTEPによる簡単な質問から、
あなたの職場におけるストレスレベルを測定します。
質問は全部で57問です。(所用時間約5分間)
はじめに性別を選んでください。

男性

女性



このコンテンツは、厚生労働省「職業性ストレス簡易調査票フィードバックプログラム」に基づいて、制作致しました。

こころの耳



<http://kokoro.mhlw.go.jp/check/>

演習②

- この演習では、障害者虐待に関するチェックリストを実際につけてみる時間としたいと思います。
- 今回は **「施設・地域における障害者虐待防止チェックリスト」** を活用します。
まず、初めにP6の「職員セルフチェックリスト」から進めて下さい。
その後はP3より順次、進めて下さい。

制度や仕組み

- 苦情解決第三者委員制度
- オンブズパーソン
- サービス第三者評価制度
- 虐待防止法・差別解消法
- 権利条約
- 成年後見制度
- 情報公開
- 日常生活自立支援事業
- 虐待防止委員会の設置

まとめ① 支援者として必要なこと

- 一定の知識と技術
- 感情のコントロール（アンガーマネジメント）
- 相手を知ること、相手を大切にすること
- **いつも自分たちの支援（言動や立ち居振る舞いを含めて）振り返ること**
 - 正当化しようとしなくていいことが大切
 - 自分の弱さに対する謙虚さ、非を認める勇気が必要

まとめ② 風通しの良い職場に

- 「その支援はおかしい」と言える。
→見て見ぬふりをしない
- 悩みや迷いを言い合える
- 「大丈夫？」と気遣える
- 非を責めるのではなく、次はどうしたらよいか、
どうしたらより良くなるかを話し合える
- お互いの良いところを見つけられる

まとめ③

- ・ 問題行動をなくすことがゴールではない。
生きがいや楽しみのあるその人らしい生活
に向けた支援を！